

場所

京都観世会館
京都市左京区岡崎円勝寺町四十四

日時

平成二十九年七月三十日(日)
正午開演(十一時二十分開場)

能演目

天^{てん}百^{ひやく}俊^{しゅん}

鼓^こ万^{まん}寛^{かん}

弄鼓之舞

田茂井廣道
林宗一郎

味方團

平成二十九年

林定期

能

第四回

写真 能《天鼓》/演能写真提供 金の星渡辺写真場

林定期能のご案内 INFORMATION

会場

京都観世会館

入場券

一般	前売	4,000円
	当日	4,500円
学生	前売	2,000円
	当日	2,500円

全館自由席

入場券取扱い

出演者 京都観世会館
林定期能楽会

E-mail hayashi_noh@i.softbank.jp または
hayashi_noh@yahoo.co.jp

※件名に「林定期能チケット申込み」、本文に氏名・ご来場公演日・
チケットの券種と枚数を記載ください。

※メール申込み等、事前のご予約の場合、チケットは公演当日、
受付にて代金と引き換えにてお渡しいたします。

お問合わせ先

林定期能楽会 TEL.075-751-8158 FAX.075-751-8167 京都市左京区浄土寺真如町24-22 <http://hayashiteikinoh.com>
京都観世会館 TEL.075-771-6114 FAX.075-761-6005 京都市左京区岡崎円勝寺町44 <http://www.kyoto-kanze.jp>

本日(解説)の演目について 河村 晴久

12:20

俊

シシ盛経樹下 千慧
シシ慶河村 和晃
シシ俊寛部 味方 團

寛

ワキ 敷免使 福王 知登

問

(船頭) 茂山 良暢

口真似

シテ(太郎冠者) 茂山七五三

休憩 十五分

2:00過

百

万

ワキ男 有松 遼一
ワキシテ(随行者) 原 陸

問

(清涼寺門前の男) 茂山 童司

(仕舞) 休憩 十五分

通 盛 杉浦 豊彦
誓 願 寺 林喜右衛門
錦 木 井上 裕久

天

鼓

ワキ臣下 岡 充

問

(仕える者) 茂山 逸平

附 祝言

午後五時半前頃 終了予定

(能)

(能)

(狂言)

(能)

(仕舞)

(能)

(仕える者)

〔開場〕午前十時二十分
〔開演〕正午

(後見) 河村 和貴

(後見) 河村 和貴

(後見) 茂山 逸平

(後見) 河村 浩太郎

(後見) 井上 裕久

(後見) 味方 晴久

(地謡) 河村 紀仁

(地謡) 浦田 親良

(地謡) 河村 和晃

(地謡) 味方 和重

(地謡) 河村 春奈

(地謡) 浦田 親良

(地謡) 河村 和重

(地謡) 佐竹 圓修

※時間はおよその目安を示しています

俊寛 あらすじ

〔俊寛〕とは人名、俊寛僧都(しゆんかんそうづ)のこと。俊寛は六勝寺のつである法勝寺という大寺の執行(寺務を統轄する職)であった。平安時代、平家全盛の頃、平氏の台頭をこころよく思わない人々が、たびたび俊寛の鹿ヶ谷の山荘に集まり、平家打倒の謀議をめぐらしていた。しかしこのクーデターは未遂に終わる。平清盛の怒りは法皇をも幽閉させようとする勢い、ある者は処刑され、ある者は流罪となった。俊寛、平判官入道康頼、丹波少将成経の三人は、九州・鬼界ヶ島に流された。世に言う「鹿ヶ谷の変」である。その後、清盛の娘・徳子(高倉天皇の中宮)が懐妊した。清盛は願を掛ける。「中宮御産の御祈りの為」に国々の流人が赦免されることになった。さて、鬼界ヶ島の流人のうち、康頼・成経の二人(ツレ)は島に熊野権現を勧請し参詣する毎日を送っている。しかし俊寛(シテ)だけは神仏に祈ることもせず、成経・康頼の出迎えに行きつづける。都での昔を懐かしむところへ赦免使が到着する。流人たちは喜ぶが、赦免状には俊寛の名前だけがない。俊寛は今まではうつつかわり動揺を見せる。船が出る。しかし俊寛は乗せてもらえない。絶望の俊寛一人を残して船は去ってゆく。



能 百万 あらすじ

「百万」とは人名。曲舞の名手であった女性芸能者である。その百万をヒロインに据え、わが子を捜し求める去尽くしの能に仕立てた作品だといわれている。男(ワキ)が、拾った少年実は百万の子。子方を伴い、嵯峨清涼寺大念仏にやつてくる。門前の者(アヒ)が面白いものを見せようと、狂女百万(シテ)を呼び出す。百万は念仏の音頭を取り、歌い、舞う。その舞姿に子は母に気づき、親子は再会を果たすのであった。狂女とは「精神錯乱者」ではなく、いわば「ある種の興奮状態が続いている人」である。必ず原因があり、原因がなくなれば狂いは覚める。能「百万」は「狂女もの」の中でも人気。曲。子を捜し求める母親が、春の嵯峨野を舞台に芸尽くしを見せる能である。



能 天鼓 弄鼓之舞 あらすじ

中国・後漢の時代のお話。この国の傍らに王伯・王母という夫婦がいた。夫婦には天鼓という子がいた。王母が「天から鼓が降りくんだり胎内に宿る夢」を見て生まれた子なので「天鼓」と名づけられた。更に不思議な音が出た。帝がその評判を聞きつけ、内裏(だいり)に、帝の宮殿に献上するよう命じたが、天鼓は拒み山中に隠れた。しかし帝は官人をもつて捜し出し、天鼓は「呂水の江」に沈められ、天の鼓は内裏・阿房殿雲龍閣に据えられた。だがその後、鼓は誰が打つても鳴らない。帝は天鼓の父・王伯が打てるかもしれないと王伯を召したのだ。帝の臣下(ワキ)が王伯の家に向かう。事情を話し、王伯(前シテ)を内裏に連れてくる。王伯はやはり心進まず「うなかご勸弁ください」というのがたまたま打たない」と再びうながされ、王伯は薄水を踏む如くに鼓に向かい万感をこめて「打ちするが、鼓は美しい音色を出す。王伯はむせび泣き、帝も涙を浮かべ給うのだ。王伯は掃毛を許される。(中入)帝は少年・天鼓を沈めた呂水の江にて管弦講(音楽法要)を営まれる。鼓も呂水のほとりに据えられる。すると水面より少年・天鼓(後シテ)が浮かび上がる。天鼓が鼓をたたき無心に打ち舞い舞い舞い舞い舞い舞い舞い舞い鳴き、夜も明け白むと、少年の姿は夢幻の如く消えてゆく。

主催 林定期能楽会

年間予定 平成二十九年 林定期能
第5回 9月17日(日) 納会 12月3日(日)
(能)実 盛 河村 晴道 (能)鉢 木 河村 和重
(能)野 宮 味方 團 (能)葛 城 大和舞 河村 晴久
会場 京都観世会館 時間 正午 開演(11時20分開場)
※場内での録音、撮影および時計、携帯電話等のアラームはご遠慮ください。
主催 林定期能楽会 http://hayashiteikinoh.com

交通アクセス
●JR京都駅から
市バス5番、100番「京都都会館美術館前」下車
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」で地下鉄東西線乗換え「東山駅」下車
●阪急河原町駅から
市バス31番、46番、201番、203番「東山仁王門」下車
●京阪三条駅から
市バス5番「京都都会館美術館前」下車
地下鉄東西線「東山駅」下車
●山科・醍醐方面から
地下鉄東西線「東山駅」下車
※駐車場は観世会館に有料駐車場(20台程度)がございます。
又は岡崎公園駐車場等をご利用ください。